

7 商社の 2013 年 3 月期第 2 四半期連結決算から

7 商社の本年度第 2 四半期連結決算発表が、10 月末から 11 月初めに行われた。決算では、5 社が減益となり、2013 年 3 月期通期予想は、7 社のうち 4 社が通期の純利益見通しを据え置いたものの、3 社が下方修正した。

以下で、7 商社の第 2 四半期連結累計期間(2012 年 4 月～9 月)における決算概要を紹介する。

(注) 7 社は伊藤忠商事、住友商事、双日、豊田通商、丸紅、三井物産、三菱商事で、当会の正副会長会社

7 商社の第 2 四半期連結累積 業績表

(単位: 億円、%)

	当上半期	前年同期	増減	増減率
売上高	347,090	354,778	-7,688	-2.2
売上総利益	22,760	25,117	-2,357	-9.4
販売費及び一般管理費	17,498	17,086	412	2.4
営業利益	5,160	7,927	-2,767	-34.9
金融収支	1,157	1,015	142	14.0
当期純利益	7,722	9,309	-1,587	-17.0

【売上】

2012 年 4～9 月期の世界経済は、米国は緩やかな回復基調にあったものの、欧州は債務問題の深刻化により後退局面にあり、アジア新興国では、欧州市場の低迷や、過去の金融引き締め政策の影響等を受けて景気の減速傾向が見られ、不透明感を強めた。日本経済は、政策効果に支えられていたが、輸出が低調となり、景気回復は足踏みしていた。そのような経済環境下、当第 2 四半期連結累計期間の商社の売上高は、世界経済の減速等を背景に商品市況の下落の影響も加わり、前年同期と比較して 7 社中 5 社が減少、2 社が増加となり、7 社合計で 34.7 兆円(前年同期比 2.2%減)となった。

【損益】

売上総利益は、前年同期と比較して 6 社減少、1 社増加、7 社合計で 2.3 兆円(前年同期比 9.4%減)と

なった。

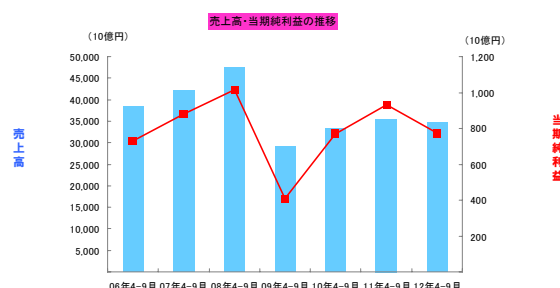
販売費および一般管理費は、4 社が負担増となり、3 社が負担減であった。

本業のもうけを示す営業利益は、6 社が減益、1 社が増益となり、7 社合計で 5,200 億円(同 34.9%減)となった。

金融収支については、受取配当金により金利収支の赤字をカバーする形となり、5 社が黒字、2 社が赤字となり、7 社合計で 1,200 億円(同 14.0%増)となった。

当期純利益については、5 社が前年同期を下回り、1 社が横ばい、1 社が上回る結果となり、7 社合計で 7,700 億円(同 17.0%減)となった。

7 商社の第 2 四半期連結累積 売上高・純利益



【通期業績見通しに対する進捗率】

世界経済には、欧州の債務問題、米国の 2013 年 1 月の「財政の崖」への対応などの国際金融市場における不確実性や、新興国の景気減速等の下振れリスクが残る。また、国際商品市況の更なる下落も懸念されている。商社の資源関連事業は、ここ数年、業績に大きく貢献しており、資源関連の割合の高い商社と非資源に強い商社の動向が注目される。

2012 年度通期の純利益見通しでは、4 社が据え置き、3 社が期初から下方修正している。

当第 2 四半期連結累計期間の 7 商社合計の純利益は、7,700 億円となり、7 社の連結業績見通し(1 兆 4,600 億円)に対する進捗率は 52.9%を達成している。

(調査グループ 関谷裕介)